

# 名古屋市学童保育連絡協議会 2018 年度方針（案）

## I. 目的

名古屋市の学童保育がさらに発展するために以下のことを主な目的にして活動します。

- 1) 子どもを真ん中においた放課後の生活がより充実することを目的にします。
- 2) 名古屋市の学童保育が発展的に継続できるよう、私たちが培ってきたノウハウを幅広く伝えていき条例や制度などを充実させることを目的にします。
- 3) 地域で必要とされる学童保育となることを目的にします。
- 4) 学童保育の理解を広めることを目的にします。
- 5) 子どもの保育を担う学童保育指導員の処遇、就業環境や育成制度がより充実することを目的にします。

## II. 方針

### 1. 名古屋市会への働きかけ

議員と連携して学童保育施策拡充に向けて取り組みます。

### 2. 名古屋市行政への働きかけ

- 1) 予算要望書を提出し、学童保育予算に反映するように働きかけます。
- 2) 放課後事業推進室と学童保育の課題を共有するための懇談を実施し、施策へ反映できるよう働きかけます。
- 3) 将来の名古屋市の学童保育の姿（学童保育の運営形態や公園への設置）について、課題を共有し、モデル運営を働きかけ、施策へ反映するように努めます。
- 4) 子育て支援計画運営会議に委員を派遣し、学童保育の意見を反映するように働きかけます。

### 3. 地域への働きかけ

役職者をはじめ地域の方々に学童保育の理解を広げます。そのために、次のことを目的とした情報共有と交流をはかります。

- 1) 各学童保育所が実りある運営委員会を定期的に行う。
- 2) 地域交流の必要性を確認し、地域に根付いた学童保育になる。

### 4. 県への働きかけ

- 1) 県連協と連携を強め、学童保育指導員がどのような雇用をされ、どのような処遇であるか、実態を理解してもらい、県の施策が前進するようにはたらきかけます。
- 2) 愛知学童保育連絡協議会を通じて、現任研修の充実を働きかけます。

### 5. 学習・交流活動

- 1) 学童保育指導員の専門性の大切さを伝え、放課後児童支援員のみでなく、学童保育士基礎資格・学童保育士 B 級・学童保育士 A 級があることを伝え、研修の重要性とともに資格取得を呼びかけます。
- 2) 学童保育指導員研修への参加を呼びかけます。
- 3) 第53回全国学童保育研究集会in神奈川  
県連協とともにプロジェクトチームをつくって、市全体及び区毎の参加目標を設定し、区連協や学童保育を訪問して参加を呼びかけます。
- 4) 全国学童保育指導員学校西日本会場 in 京都市は、県連協とともにプロジェクトチームをつくり、参加目標を決めて取り組みます。
- 5) あいち学童保育研究集会を充実させるために、実行委員会には、各区連協から実行委員を 1 名以上選出し、実りのある研究集会をつくり上げます。
- 6) 必要に応じて学習会を行います。

### 6. 安定した雇用を目指して

- 1) 合同（共同）雇用への共通理解を進め、促進します。
- 2) 各学童保育所が労働条件と労働環境の向上をはかるよう働きかけます。

## 7. 保育内容向上のために

- 1) 保育の質の向上が、学童保育の理解と学童保育所の存続につながることを念頭に、各区の学童保育指導員が交流し、さまざまな情報を共有しながら活動します。
- 2) しょうがいのあるすべての子どもたちが楽しく学童保育での生活が過ごせるように、各区の学童保育指導員と保護者が交流・意見交換します。

## 8. 組織拡充の取り組み

- 1) 各区より 1 人以上の役員を選出するなど、相互に連携が取れるよう組織体制を整えます。
- 2) 区連協・保護者会に対して、必要に応じた活動の後押し等を行います。
- 3) 市連協加盟の区連協未加盟学童保育所に対して、区連協とも連携しながら、保護者会等との関係づくりを継続します。
- 4) 市連協未加盟学童保育所等に対して、区連協など関係者との連携を図りながら、引き続き関係づくりを行います。
- 5) その他の学童保育関係者に対して、学童保育への理解が深まり広がるよう取り組みます。

## 9. 広報・宣伝

- 1) 市連協ニュースを月 1 回以上の発行を目指し、市連協の活動、学童保育に関わる情勢、各区連協・各学童保育所の取り組みを伝えます。
- 2) ホームページや SNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）での情報発信を充実させます。
- 3) マスコミに学童保育に関する情報を適宜提供し、取材を働きかけます。
- 4) 学童保育の無料情報誌「アンジェロ・ヌーヴォ」等の発行・配布に協力します。
- 5) その他、必要に応じて広報・宣伝をおこないます。

## 10. 『日本の学童ほいく』誌

- 1) 2018 年度の目標数を 1,500 冊とし、購読の継続と新たな購読者を増やします。
- 2) 『日本の学童ほいく』誌購読の意義・目的を周知し、普及と購読の拡大を確実なものとします。

## 11. 財政

安定した財政運営を維持するため、会費の早期納入を呼びかけます。

## 12. 学童保育の理解を広げる

- 1) 学童保育指導員労働組合〈建交労〉と共同して学童保育施策が前進するよう運動を進めます。
- 2) 公立保育園父母の会  
保育園保護者のニーズに沿った情報提供が行えるよう、小学生の子どもよりよい放課後の過ごし方について共に考え合う機会を持ちます。  
また、全区より学童保育指導員と保護者を担当として選出し、地域に根ざした学童保育の良さを、より丁寧に伝えられるように体制を整えます。
- 3) その他、子どもに関わる団体と連携し、幅広く子育て・子育てを応援し、学童保育の理解を広げます。

## 13. 東日本大震災復興応援

東日本大震災応援の中でできたつながりを大切に、今後はお互いに相談・保育研究をしながら、連携して学童保育を取り組みます。また、連携・活動を支える財政活動をカンパにて行います。